



キキョウソウ



ムントリナデシコ



オックチカクバミ



シロツメクサ



セイヨウタンポポ



植物環境マップ  
どうろ  
道路

ハルジオン



日本には大小の道路があみの目にように張りめぐらされています。大きな道は車道と歩道が分けられ、わずかな街路樹のスペース以外はほとんど土も見えない状態です。それでもわずかな土や舗装のすきまにもしっかりと根を下ろす植物があります。夏には舗装路の表面はさわれないほど熱くなりますし、冬には雪や氷におおわれる過酷な環境です。どんな植物でも生きられるわけではありません。でも、こうした環境がふえているのでそこで生き残れるかどうかは、植物をはじめ生き物たちにとってとても重要なことです。

この巻ではそんな道端の外国から来た植物を中心におい仲間の在来種などを紹介していきます。

## セイヨウタンポポ



冬でも陽だまりでは花をつけ、虫がいなくてもたねができる。



コンクリートのすきまにも生え、春以外にも花を咲かせる。

原産地の  
ヨーロッパでは  
サラに！



花の下がわにある締苞片とよばれる部分が外がわにそりかえっているのが特徴。葉の切れ込み方にはいろいろある。

明治時代に食用として日本に入ったのが最初といわれています。自分の株だけでたねを作れ、春以外の季節にも花をつけられる性質を持っています。在来種より人間の開発した環境に合っていたため、街中やその周辺で見かけるタンポポの多くはこのセイヨウタンポポになりました。



- 分類：キク科・タンポポ属
- 花期：3～10月
- 原産地：ヨーロッパ
- 渡来時期：明治時代

外来種

## カントウタンポポ



花の下がわの締苞片はそりかえらず、先端の外がわに小さなでっぱりがあることが多い。

探しめよう！  
日本の在来種

ほかの株の花粉を虫に運んでもらわないと、たねはできない。



在来種

- 分類：キク科・タンポポ属
- 花期：3～6月
- 分布：本州



綿毛のついた実は風に運ばれ、地面に落ちるとふつう秋に芽を出す。



在来種のタンポポで、関東地方とそのまわりに多いのが名前の由来です。外来種とちがって自分の株の花だけではたねが作れないでの、生存競争には不利なようですが、春から初夏にたねを作ると地中の部分だけ残して休眠し、秋に芽を出すので、夏にはほかの草がしげるような外来種が苦手な環境でも大丈夫です。



●分類:キク科  
タンポポ属  
●花期:3~6月  
●分布:本州、四国、九州

## カンサイタンポポ

見つけにくくなった  
西日本の在来種

関西地方から四国、九州で見られる在来種のタンポポです。土手やあぜ道などに生えますが、除草剤などの影響もあり、数がだんだんへってきているようです。花びら(舌状花)の数はやや少なめで、全体に細身です。



●分類:キク科  
タンポポ属  
●花期:3~10月  
●分布:本州、四国、九州、沖縄

## シロバナタンポポ

西日本から  
九州に多い  
白い花

関東地方より西に生え、四国や九州など、西に行くほどよく見られる白い花の在来種です。在来種としてはめずらしく、花の下の総苞片が少しそりかえり、ほかの株の花粉がなくてもねがができるなどの特徴があります。

くらべてみよう!



### カンサイタンポポ

総苞片は細めで、そりかえらない。



### シロバナタンポポ

総苞片は少しそりかえる。



### トウカイタンポポ

総苞片はそりかえらず、先がでっぱる。



### エゾタンポポ

総苞片は幅広く、先は細くとがる。



### アイココタンポポ

総苞片は外来種との中間的な形。



## ブタナ



タンポポそっくりな花を細くて長い茎の先に咲かせる。肉厚の葉は食用にもなる。

## タンポポに似ている花

タンポポの花は小さな花(舌状花)が多数集まってできています。キク科のこのような花を頭花といいます。身近にあるタンポポに似た花には、ノゲシやコウゾリナなど、すでにおなじみのものもありますが、ここでは最近よく目にする外来種2種をとりあげました。

フトエバラモンギク (左) と  
セイヨウタンポポ (右) の綿毛。



草丈50~70cmで  
タンポポより舌状  
花が少ない。タンポ  
ボそっくりの巨大な  
綿毛ができる。